

平成 26 年度効績章表彰について

平成 26 年 12 月 8 日
公益財団法人鉄道総合技術研究所

公益財団法人鉄道総合技術研究所（以下、鉄道総研）は、平成 26 年度効績章の表彰式を下記のとおり開催しましたのでお知らせいたします。

記

1. 日 時 平成 26 年 12 月 4 日（木） 11:00～11:45
2. 場 所 パレスホテル立川（東京都立川市）
3. 受章者 15 名
4. 列席者 理事長 熊谷則道、専務理事 市川篤司、専務理事 澤井潔、
理事 高井秀之、理事 奥村文直、理事 米澤朗、監事 稲見光俊、
企画室長、コンプライアンス推進室長、総務部長、経理部長、
研究開発推進室長、研究開発推進室 JR 部長、事業推進室長 他

表彰式で受章者に表彰状を手渡した理事長 熊谷則道が挨拶を行い、永年勤続の労に敬意を表しました。理事長の挨拶を受け、受章者を代表して情報管理部知的財産課長 早勢祥子が答辞を述べました。

【理事長挨拶要約】

皆さんが入社された平成元年、年号が変わった年ではありますが、まさに激動の時代、時期でありました。消費税が 3% でスタートし、日経平均株価が最高値を記録した年であり、まさにバブルが弾ける寸前でした。世界に転じれば、冷戦が終結し、ベルリンの壁が崩壊した年でもありました。皆さんは、そのような年に入社して、いろいろな壁にぶつかり、時には逃げ出したくなるような思いもしながら 25 年、着々と歩いて来られました。現在はそれぞれが大変責任ある立場にあって、鉄道総研としても皆さんは無くてはならない存在になっているわけです。何より、皆さんが健康で、この場にいらっしゃるということが、何よりの宝物であると思っておりますし、皆さんの背中を見てきた若い後輩達が育ってきていることが、皆さんの実績の一つであると思います。

さて、今の我々の合言葉は「ダイナミクス」、そして「品質」であります。品質を高めること、そして、信頼を高めることは企業の存続に共通することではありますが、皆さんのご家族間の信頼もまた大事です。これからも、会社の中でも家庭でも信頼を高めることを常に心に留めて、また、健康を大事にして、更に業務に精励されることを期待しております。

【受章者代表答辞要約】

本日は、勤続 25 周年を迎えました私ども 15 名に効績章を賜り、誠にありがとうございました。私どもは、国鉄の分割民営化により発足した鉄道総合技術研究所に第 2 期生として平成元年 4 月に入社いたしました。当時の鉄道総研は、新しい理念に基づき、役職員の皆様が一丸となって、運営基盤の確立に取り組まれていました。特に、好景気の追い風をうけ、社会的にも注目を集めていた浮上式鉄道の開発には多くの職員の皆様が参画し、プロジェクト推進に尽力

しておられました。私どもも宮崎実験線において4ヶ月の実習を行い、新たな鉄道システムの実用化を目指した研究の一端を学び、この経験はその後の業務遂行の大きな糧となりました。

それから25年の間、新幹線の速度向上、地震対策、脱線・衝突対策、メンテナンス技術の革新など鉄道の安全性・信頼性の向上などの鉄道技術の目覚ましい発展があり、私どもも微力ながら、鉄道総研において、これらの業務に携わったことはこの上ない喜びと誇りであります。

本日の効績章を機に、初心に立ち返り、これまでの経験や実績に慢心することなく、鉄道総合技術研究所の一層の発展と社会への貢献に向けて、今後とも業務に精進することを誓い、御礼の言葉とさせていただきます。



写真 表彰状を手渡す 鉄道総研理事長 熊谷則道



写真 答辞を述べる情報管理部知的財産課長 早勢祥子